

[First Hit](#)[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

Generate Collection

Print

L3: Entry 51 of 76

File: JPABJun 3, 1997

PUB-NO: JP409143086A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 09143086 A

TITLE: DRUG AND COSMETIC FOR TREATMENT OF SKIN DISEASE

PUBN-DATE: June 3, 1997

## INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

HIDAKA MASAYOSHI

## ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KK SAN ENG

APPL-NO: JP07304787

APPL-DATE: November 22, 1995

INT-CL (IPC): A61 K 35/78; A61 K 7/00; A61 K 7/48ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a composition free from insoluble material originated from turmeric, containing a fat-soluble extract of turmeric and a vegetable oil as essential components and useful as an agent for the treatment of skin diseases such as eczema, pimple or atopic dermatitis or a cosmetic for preventing and normalizing chapped skin or beautifying the skin.

SOLUTION: This composition contains (A) a fat-soluble extract of turmeric and (B) a vegetable oil such as sesame oil, olive oil or camellia oil, especially a rubber oil as essential components and is essentially free from insoluble material originated from turmeric. The water-content of the composition is adjusted to  $\leq 0.5\%$  as necessary. The amounts of the components A and B are 0.5-20wt.% and 99.5-80wt.% based on 100wt.% of A+B, respectively. The composition can be produced, e.g., by heating the component B at 100-150°C, allowing to cool to remove water from the oil, keeping the oil at about 50°C, slowly adding dried turmeric powder to the oil under stirring to completely dissolve the component A in the component B and sufficiently removing the precipitate comprising turmeric-originated insoluble material by centrifugal separation, etc.

COPYRIGHT: (C)1997, JPO

[Previous Doc](#)[Next Doc](#)[Go to Doc#](#)

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-143086

(43)公開日 平成9年(1997)6月3日

(51)Int.Cl. <sup>8</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K 35/78	ADA		A 6 1 K 35/78	ADAC
7/00			7/00	K
7/48			7/48	

審査請求 未請求 請求項の数7 O L (全 5 頁)

(21)出願番号	特願平7-304787	(71)出願人	594204631 株式会社サンエンジニアリング 大阪府堺市百舌鳥赤畑町2-72
(22)出願日	平成7年(1995)11月22日	(72)発明者	日高 正宜 大阪府堺市百舌鳥赤畑町2-72 株式会社 サンエンジニアリング内
		(74)代理人	弁理士 三枝 英二 (外4名)

(54)【発明の名称】 皮膚疾患治療剤及び化粧料

(57)【要約】

【課題】皮膚炎治療薬及び化粧料を提供する。

【解決手段】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を含まない皮膚疾患治療剤組成物及び化粧料組成物。

## 【特許請求の範囲】

【請求項1】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まない皮膚疾患の治療剤組成物。

【請求項2】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、水分含量が0.5%以下の皮膚疾患治療剤組成物。

【請求項3】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まず、かつ、水分含量が0.5%以下の皮膚疾患治療剤組成物。

【請求項4】請求項1～3のいずれかに記載の治療剤組成物からなるアトピー性皮膚炎治療剤。

【請求項5】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まない化粧料組成物

【請求項6】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、水分含量が0.5%以下の化粧料組成物。

【請求項7】ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まず、かつ、水分含量が0.5%以下の化粧料組成物。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、皮膚疾患治療剤に関し、湿疹、ニキビ、乾癬、火傷、虫さされ老人性乾皮症、アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患、特にアトピー性皮膚炎の治療剤に関する。

【0002】また、本発明は、荒れ肌の予防または荒れた肌を正常な状態に戻し、美肌効果を有する化粧料組成物に関する。

## 【0003】

【従来の技術】従来、荒れた皮膚や皮膚疾患の治療に種々の薬物が使用されてきた。例えばステロイドホルモンは、アトピー性皮膚炎等のほとんどの皮膚疾患に著効を示すが、その使用を中断すると症状が悪化するなどの強い副作用のために、使用が制限されている。また、荒れ肌に対し美肌効果を有し、かつ皮膚刺激作用のない緩和な作用の化粧料が求められてきた。

## 【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は、アトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の有効な治療剤を提供することを目的とする。

【0005】また、本発明は、荒れ肌の予防または荒れた肌を正常な状態に戻し、美肌効果を有する化粧料組成物を提供することを目的とする。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】本発明者は、皮膚の弱い患者や皮膚の炎症を起こしやすいアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患の患者について、緩和な作用を有する生薬成分、特にウコンに着目し、ウコンを含む製剤について種々検討した結果、ウコンを特定の植物油に配合し、該植

物油中にウコンの脂溶性抽出物質を溶出させ、残りのウコン由来の不溶解物を除去した組成物がアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患に有効であることを見出した。また、ウコンを特定の植物油に配合し、該植物油中にウコンの脂溶性抽出物質を溶出させた組成物の水分含量が一定以下であると、水分を多く含む組成物に比較して皮膚疾患に対する有効性が顕著に高まることを見出し、本発明を完成した。

【0007】すなわち、本発明は、以下の皮膚疾患治療剤組成物及び化粧料組成物に関する。

【0008】項1. ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まない皮膚疾患の治療剤組成物。

【0009】項2. ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、水分含量が0.5%以下の皮膚疾患治療剤組成物。

【0010】項3. ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まず、かつ、水分含量が0.5%以下の皮膚疾患治療剤組成物。

【0011】項4. 項1～3のいずれかに記載の治療剤組成物からなるアトピー性皮膚炎治療剤。

【0012】項5. ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まない化粧料組成物

項6. ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、水分含量が0.5%以下の化粧料組成物。

【0013】項7. ウコンの脂溶性抽出物質と植物油を必須成分とし、ウコン由来の不溶解物を実質的に含まず、かつ、水分含量が0.5%以下の化粧料組成物。

【0014】なお、本発明において、「ウコン由来の不溶解物を実質的に含まない」とは、ウコン由来の不溶解物の比率が0.5重量%以下であることを意味し、ウコン由来の不溶解物の比率は、好ましくは0.3重量%以下、より好ましくは0.1重量%以下、さらに好ましくは0.05重量%以下である。

## 【0015】

【発明の実施の態様】本発明のウコンとは、特に限定されないが、通常はショウガ科の多年生草本（*Curcuma longa* L; 英 *curcuma*）またはその根茎（英: *turmeric*）を意味する。ウコンは一般に香辛料、着色料として活用されており、性状は橙黄色の粉末で、やや芳香があり、苦味がある。ウコンの脂溶性抽出物質としては、室温～200℃程度の加温下に植物油中に溶出する成分が挙げられ、原料のウコンの種類により変動するため、特に限定されないが、通常、主成分であるクルクミンの他にd- $\alpha$ -フェランドレン、ターメロール、サビネン、ジンジベレン、シネオール、ボルネオール、カプリール酸等の成分を包含する。

【0016】本発明で使用するウコンは、水分の少ない

ものを使用するのが好ましい。

【0017】本発明の組成物の他の必須成分である、植物油としては、ゴマ油（太白ゴマ油、黒ゴマ油など）、オリーブ油、椿油、ヒマシ油、ホホバ油、ヤシ油、ラノリン、カカオ脂、ピーナッツ油などが挙げられる。一方、紅花油、大豆油、馬油、スクワレン、シソ油、ひまわり油等は、安定性またはアトピー性皮膚炎治療効果が低く、好ましくない。好ましい植物油はゴマ油（太白ゴマ油、黒ゴマ油など）、オリーブ油、椿油であり、最も好ましくはゴマ油である。

【0018】本発明の植物油には、オレイン酸、リノール酸、リシノール酸、パルミチン酸、ステアリン酸及びこれらのグリセリドなどを含んでいてもよい。

【0019】本発明の組成物には、天然の抗酸化剤、例えばセサミノール、セザモール、トコフェロール、没食子酸、アオイ花抽出物、エラグ酸、オリザール、カテキン、カンゾウ油性抽出物、クローブ抽出物、グアヤク脂、生コーヒー豆抽出物、米糠油抽出物、米糠酵素分解物、セージ抽出物、テンペ抽出物、糖・アミノ酸複合物、菜種油抽出物、ノルジヒドログアヤレチック酸、ピメンタ抽出物、ヘスペレチン、レシチン、ペパー抽出物、メラロイカ精油、モリン、ユーカリ葉抽出物、リンドウ根抽出物、ルチン分解物、ローズマリー抽出物、エコツキ抽出物、ヒノキチオール、ペクチン分解物、アスペルギルステレウス抽出物、イソケルセチン、酵素処理ルチン、食用カンナ抽出物、セリ抽出物、トコトリエノール、ブルーベリー葉抽出物、プロポリス抽出物、ホオノキ抽出物等が挙げられ、これらの1種または2種以上を適当量加えることができる。

【0020】本発明の組成物の配合割合は、ウコンの脂溶性抽出物質と植物油の合計量を100重量%として、ウコンの脂溶性抽出物質0.5~20重量%、植物油99.5~80重量%であり、好ましくはウコンの脂溶性抽出物質1~9重量%、植物油99~91重量%である。

【0021】本発明の組成物の製造は、例えばゴマ油（80重量部）を、水分を除く目的で100~150℃に約10分間加熱し、放冷して十分に水分を揮発させ、次に50℃近傍の温度に油温を維持しつつ、十分に乾燥したウコン粉末（20重量部）を強力に攪拌しながら徐々に加え、30分以上、好ましくは10時間程度攪拌を続け、ウコンの脂溶性抽出物質を十分に溶解させる。沈殿したウコン由来の不溶解物は遠心分離、濾過、デカンテーションなどの分離手段により、組成物が透明になるまで除去する。

【0022】本発明の組成物中の水分含量は、組成物全体の0.5重量%以下、好ましくは0.2重量%以下、より好ましくは0.1重量%以下である。水分の除去方法としては、乾燥ウコンを用いること、原料の植物油の水分含量を少なくしておくこと、あるいは真空濾過装置

等を用いて製造過程で水分が混入しない事により乾燥雰囲気にして製造を進める他、脱水剤（シリカゲル等）を添加して油中水の除去を行う等が挙げられる。

【0023】本発明の組成物で治療される皮膚疾患としては、湿疹、ニキビ、乾癬、火傷、虫さされ、老人性乾皮症、皮脂欠乏症、アトピー性皮膚炎、シミ、ソバカス等の色素異常、じんま疹、たむし、水虫、乾燥水虫、あかぎれ、花粉症、しもやけ、股ズレ、いんきん、水疱、すりきず等が挙げられる。

10 【0024】本発明の化粧品組成物は、荒れ肌を防止し、かつ新陳代謝をよくし、正常な皮膚に戻すためのオイル又はクリーム用基剤、オイルマッサージ用化粧品、美顔用パック基剤、ホワイティング基剤、クレンジングオイル、毛髪用トリートメント基剤、日焼け止めオイル、ハンドクリーム等が挙げられる。

【0025】本発明のアトピー性皮膚炎などの皮膚疾患治療剤組成物は、成人1日当たり患部に皮膚100cm<sup>2</sup>当たり30~1000mg程度適用する。

20 【0026】なお、本発明の組成物は、鼻の穴の中に油滴等の形態で適用した場合、花粉症に有効である。従って、本発明は、請求項1~3のいずれかに記載の組成物を有効成分とする花粉症予防及び治療薬を提供するものでもある。該花粉症予防及び治療薬は、例えば成人の場合鼻の穴の中に、1回当たり、1~数滴適用することにより効果がある。

【0027】

【発明の効果】本発明によれば、有効なアトピー性皮膚炎治療剤組成物が提供される。また、本発明の化粧品組成物は、荒れ肌を正常な肌に戻すとともに、美白効果を有するため、各種の化粧品としても有用である。

【0028】

【実施例】以下、本発明を実施例及び比較例を用いてより詳細に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

【0029】実施例1

70℃に加熱したゴマ油75重量部中にウコンの根茎の粉末25重量部を加え、攪拌しながら70℃で6時間攪拌し、次いで、一昼夜静置して不溶解ウコンを容器の底部に沈積させた後、デカンテーションにより上澄液を注傾させて粗製物を得た。次いで、珪藻土をブレコートした真空ドラム式濾過機で精密濾過を行い、透明な組成物を得た。この濾過の際、ウコンの不溶物の残渣は、珪藻土の表面にケーキ状となり分離された。得られた透明組成物75重量部中にウコンの根茎の粉末25重量部を加えて加熱する上記の抽出操作を、ウコンの脂溶性抽出物質の比率が3.5重量%を超えるまで繰り返し、必要に応じて同様の加熱操作を行ったゴマ油を加え、ウコンの脂溶性抽出物質の比率を3.5重量%（ゴマ油：96.5重量%）に調整した。なお、ウコンの脂溶性抽出物質の比率は、HPLCで確認した。得られた組成物の水分

含量は、JIS K-3362の方法に従い、油中水分測定試験器により測定した結果、0.08重量%であった。該組成物（試験サンプル1）を以下の試験に供した実施例2

120℃に加熱したゴマ油80重量部中にウコンの根茎の粉末20重量部を加え、攪拌しながら50℃で10時間攪拌した。次いで、デカンテーション及び遠心分離（2400rpm；10分間）を行った後、実施例1と同様に真空ろ過機により沈積ウコンを除去し、得られた透明組成物80重量部にウコンの根茎の粉末20重量部を加えて加熱する抽出操作を、繰り返してウコンの脂溶性抽出物質の比率が1.2重量%を超えるまで繰り返し、必要に応じて同様の加熱操作を行ったゴマ油を加え、ウコンの脂溶性抽出物質の比率を1.2重量%（ゴマ油：98.8重量%）に調整した。得られた組成物の水分含量は、JIS K-3362の方法に従い、油中水分測定試験器により測定した結果、0.15重量%であった。水分をより取り除くためにシリカゲルをこれに5%加え、1昼夜放置し、上澄み油をデカンターにより取り出し、さらに真空ろ過機で精密ろ過（1μ以下）した結果、水分は0.05%以下となった。

【0030】上記で得られた組成物99.9重量部に抗酸化剤であるセサミノール0.1重量%を加えた組成物を試験サンプル2とする。

【0031】実施例3

ゴマ油に代えてオリーブ油80重量部を用い20重量部のウコン根茎の粉末を用いた他は実施例1と同様にしてウコンの脂溶性抽出物質1.8重量部とオリーブ油98.2重量部からなる組成物を得た。該組成物を試験サンプル3とする。

【0032】実施例4

ゴマ油に代えて椿油70重量部を用い、30重量部のウコン根茎の粉末を用いた他は実施例1と同様にしてウコンの脂溶性抽出物質2.5重量部と椿油97.5重量部からなる組成物を得た。該組成物を試験サンプル4とする。

【0033】比較例1

実施例1の組成物100重量部にに対し、水を10重量部加え、激しく攪拌して、比較サンプル1を得た。

【0034】比較例2

沈積ウコンの除去を行わなかった他は実施例1と同様にして、比較サンプル2を得た。

【0035】比較例3

ゴマ油（水分含量1%）を比較サンプル3とした。

【0036】試験サンプル1～4及び比較サンプル1～3を以下の試験に供した。

【0037】薬理試験例1

実施例1～4で得られたサンプル1～4及び比較例1～3で得られたサンプル5～7について、各々5名の重症のアトピー性皮膚炎の患者の皮膚に1日1回皮膚面積1

00cm<sup>2</sup>当たり500mgを2週間適用し、効果を判定した。

【0038】判定は、各患者について以下の評価基準で行い、5名の患者の合計値を以下の表2に示した。

【0039】”2点”：皮膚の炎症がほぼ消失した。

【0040】”1点”：皮膚の炎症が軽減した。

【0041】”0点”：効果を示さなかった。

【0042】

【表1】

5名の患者の合計得点

試験サンプル1	5
試験サンプル2	6
試験サンプル3	5
試験サンプル4	4
比較サンプル1	2
比較サンプル2	3
比較サンプル3	2

上記の結果から、本発明の組成物はアトピー性皮膚炎に非常に有効であることが明らかになった。

【0043】薬理試験例2

実施例1～4で得られたサンプル1～4及び比較例1～3で得られたサンプル5～7について、各々5名の被験者の正常な皮膚に1日1回皮膚面積100cm<sup>2</sup>当たり1000mgを擦り込んで2週間適用し皮膚刺激作用を観察した。結果を表2に示す。

【0044】

【表2】

5名の患者の合計得点

試験サンプル1	◎
試験サンプル2	◎
試験サンプル3	◎
試験サンプル4	◎
比較サンプル1	○
比較サンプル2	△
比較サンプル3	○

なお、表2中：

”◎”は、5人とも皮膚刺激がないことを示す。

【0045】”○”は、5人のうち1または2人に弱い皮膚刺激が認められたことを示す。

【0046】”△”は、5人のうち3人以上に弱い皮膚刺激が認められたことを示す。

【0047】上記のように、本発明の組成物は皮膚刺激作用がないことが明らかになった。従って、皮膚疾患用剤及び化粧料として用いるのに有用であることが明らかである。なお、本発明の組成物（試験サンプル1～4）は、該薬理試験例2の条件において皮膚に適用したあと、しばらくして拭き取った場合、美白効果を有することが確認された。

【0048】薬理試験例3

試験サンプル1～4を鼻の穴の中にスポイトで1～2

(5)

特開平9-143086

7

滴、各サンプルについて5人の被験者に1週間適用した。5人の被験者全員について、該試験サンプル1～4を適用したときに花粉症の症状が軽減され、試験サンプ

8

ル1～4の適用前及び適用後は、適用時よりも花粉症の症状が強かった。